

婦人関係資料第二四号

市民としての婦人

労働省婦人少年局

本篇は米国政治社会学会で一九四七年に発行した
年譜「婦人の進出と責任」編の中の、*Woman As
Citizen* (カスリン・H・ストーン著)を訳出
したものです。

一九二〇—四〇年 願志期	一
男女による差異は重要でない	三
政治的無経験	四
政治的発達	六
公正不偏——有利な点	七
婦人団体の功罪	八
四十六百万の潜在市民	一〇
『婦人のもち場』——文化的抵抗	一一

内

市民としての婦人

カスリン・H・ストーン

もはや私たちは『市民としての婦人』を語ることをやめて、単なる市民について語るべき時です。市民としての男子と女子の間のちがいは大きなものではありませんが、又現に存在するちがいは、教養上の原因に多くもとずくものであり、しかもそれはほとんど解決して行かぬものです。私たちは男女市民の間の差異の分析をすることはもうやめて、原子力時代に生きるすべての市民に共通の苦勞と悩みを解決する方法を見出すために精力を使つた方がわが國民及び世界にとって、はるかに有益なことでしょう。

といつてもこれは男女間の差異が事実でないとか、論づるにたりないとか、いう意味ではありません。この反対に、男と女とが社会で演ずる相異なる役割を考へ直し、評価し直すことは一般に大いに必要です。だが私がいうのは婦人が参政権を行使したこの廿七年間の経験の結果『婦人プロック』というものは存在しないこと、市民精神や市民活動は男性によつて或は女性によつてその一部でも独占されるものではないこと——要するに市民としての男女は互いに緊密に結び、かつ社会全体としてつくり結がついていることが実証されたことと申さなければいけません。

◎一九二〇—四〇年

願志期

急に大勢の市民が選挙民に加わる場合には、その市民たちの性格がどんなものであるにせよ、順応し同化するための一時期を必要とするものです。アメリカでは一九二〇年以後男女は互いに相手を政治的な同輩として考えることを学ばなければならませんでした。男女は一緒に働くことを選んで、たがいに相手がどれだけ自分と役でいるかを学ばなければならませんでした。婦人というものは生来ながらの『改革者』だろうか、男よりも人づから強く、男よりもすぐれた教師だろうか、婦人は政治を『淨化』するだろうか。婦人はその生物学的な役割の故に自然に人類保存者となるものだろうか。婦人は政治に接する場合に、多かれ少かれ感情的だろうか、公共の向度に対する婦人の新しい役割は、彼女等の家族と家庭生活にどんな影響を及ぼすだろうか。今日では大として重要と考えられなくこれらの点が一九二〇年にはやがていく向度になつていました。

が男だから、女だからではなく、或る男子たち、又は或る婦人たちが社会からの特殊の考慮を必要とする特殊の任務を遂行しているからであります。たとえ女子の行う育児や家庭の経営は、社会にとって必要不可欠からざるものであり、社会によつて規定され、保護されなければならないもの、父親の責任もまたそれと等しく重要なものではあります。多少のちがつておりますから多少のちがつた法律によつて認められなければならないので

男にせよ、女にせよ、市民は政府のみなうけつてゐる種類の水準と水準とに對し、市民同士の間の行為の規則に對し、政府の作業と運営の能率に對し、政府の市民会体に対する平等の特遇について、つまり政治全体に對して、責任をわかつたものであります。市民の欲する規則や規定は社会的価値や社会的価値の变化にとらなつて、ちよいと、或ることであります。それにしても規則や規定はすべての市民に利害關係のあるものです。女性固有の市民性の性質を説くことは無意味です。又一九二〇年以後の婦人へ歴史的に婦人がその時以來になつたとしてゐる市民性一般の分析をするには私にわたりあてられた紙面ではたまりません。が市民としての婦人に影響した重要な文化的要因を幾つか挙げることはできません。又大事なことに思ひます。なぜならそれらの文化的要因に對する私たちの市民としての態度は重要な問題ですから。即ちそれらを知らなければ私たちの或る事情を察したり前のこととしてとつたと次に進むことが出来る根拠になり又それを正当と認めるならば男女どちらの側にも望ましい変化がおこましよう。

◎政治的無経験

婦人市民に影響を及ぼす広範な文化的要因のなかで、その政治的無経験は最も著しいものです。市民活動には実習を必要とします。それは参政権なしではうまく実習の出来ないものなのです。もつとも一九二〇年から殆んど一世紀も前に、非常な困難にもかかわらず、主張をまげずに参政権なしでもある程度政治的に効果をおげた少数の婦人もあるにはありました。

婦人が全体として政治的に未成熟であつたことを示すために、ここに参政権運動の物語と、一八四〇年以來、一世紀にわたる社会及び政治の歴史をおさらいして置かせることは無用です。婦人運動の文獻は、指導者たちが婦

内二

人の政治的熱心に絶望してゐたことを示してゐます。そういう指導者たちが参政権の獲得に目標を集中したのは、市民としての義務を行使し政治的成熟が得られるものと認めたからです。けれども政治的未成熟が婦人固有の性的特徴だといふとめなければならぬ理由はないのです。婦人の未成熟はあまり保護されすぎたり、無教育だつたり、そのほか不遇で未発達なグループの場合につねに見られる政治的未成熟と少しもちがつてはいないので

政治的成熟とは、他の人々——男、老幼、教養、未婚、労働者、農民、事業家と問わず——の福祉と利益のために政治を通じて責任を負ふ能力と自覚性というのです。そこで市民精神は個人の能力、洞察力及び精力に依つていくらかも広くかつ深くなることか出来るのです。こういう点で男子が女子よりすぐれているとか、女子が男子よりすぐれているとか想像するに足る根拠は一つもありません。婦人は後進家族生活、慈善事業、教育の分野では決定的な責任をとつて来ましたが、けれども現代の複雑な社会からみ合つてゐる世の中では、私たちはすべての人々に共通な唯一の制度である政治を通じて、ますます多くの責任をとることが必要なのです。

多くの婦人が市民として男子と同様に責任をとるようになつて来たことは今では誰もが認めてゐます。しかし殆んどすべての老人は婦人参政権以前に自分たちの近隣社会の公共的義務に邁進して参加した婦人はごくわずかだつたことを証言するがさうです。そしてさういふ婦人が周囲からは「変り者」と考えられ、かつたが一つの主義に一身を捧げていた人だつたことを語るでせう。選挙権を得たということが、政治的機会へ近づく鍵であつた以上、参政権論者が唯一の主義のために何がなければならなかつたのは勿論当然のことでした。今日では公共的義務に積極的に働く婦人が度々物にといわれないう程度にその数がふえました。とはいへ今なお少数グループとして目立つたのが弱みではあります。投票を政治的熱心の一つの指標として考へるなら、最近の調査では、婦人よりも男子の方が政治に関心をもちつてゐるという世向一般の見解が確証されました。例えばオハイオのワシントン郡で一九四〇年の選挙の後に行われた世論調査では婦人の棄権者は男子の棄権者の二倍に達してゐました。多くの全国的及び地方的な婦人団体は、男女間に存在すると認められる政治的成熟のちがいをなくすために何十年も切つてきまつたが、一九三九年以來、さういふ団体の指導者たちは、政治的未成熟は婦人に固有のものなのだとは思わなくなつて来ました。男子の方が、政治の実際の動きによけいに関係をもち、

政治機構の中で重要な地位をしめてゐることは確かです。また経験という点でも、男子は有利です。彼等は、ずつと手綱を握つてゐたのですから、けれども最近の工業的で、ことの危険な性質を見ると、男子の政治的洞察力和判断力に對して、重大な疑問が起きます。

金入瓶の政治的成熟が今や向頭とされなければならず、それに答ふるために私たちは、私たちの市民性に何が欠けてゐるかという一般的な疑問を考へてみなければなりません。私たちは政治的技術を発達させるということと、積極的な市民の数を男女共にゆやすことという、この相伴う一対の問題を考へなければならぬのです。このことを知つてゐる考へ深い婦人たちは、もはや單に女同士でだけ、又は女としてだけ働くことに満足しないのです。たとへ今なお婦人だけの団体又は男子だけの団体というものがあつたことに實際的な便利はあるとしても。

③ 政治的発達

そういう婦人たちは、政治的成熟は事実上成長の機会が与えられるかどうかでさまるものだとしてゐた。なせならもしも精神的及び政治的成熟不良によつて發育をとめられたり、又はわれわれの文化の他の側面が余り強大なためにおとまけられたり、パランスがとれなくされたりさへしなかつたならば成長と成熟とは人間の自然の衝動としてどんなに発達するものなのですから、人間という種族は、無限に発達する政治的動物といえます。人類の潜在的な政治能力は、少くともわれわれが今日明らかにもつてゐる技術的・科学的能力——そのために驚嘆もし、希望ももつのですが——にくらべて劣るものではないという信念を私たちはもたなければなりません。そうすれば政治的成熟が更に加わるにちがひありません。そういうもののなのです。

今日の必要に應ずる市民を作るには、各種状態や習慣や習慣を打破し、共通の問題について仲間と共、考へ、共に行動しようとする自然の欲望を人々の間にめざせ、政治的責任をとるための効果的な方法を示唆したり、提供したりすることが必要なのです。

これは男女を問わず、すべての市民の間に行われなければならぬことです。男か女かということとは、これには無関係です。原子爆弾を生産するために仿いた科学者の多くは、政治的なできごとには一向関心をもちませんでした。かれらは自分たちの実験室にたてこもり、人間の肉體というふうなところのない資料には一顧も与ま

せんでした。ところが人間の運命に對するかれらの仕事の結果が原子爆弾によつてあつても劇的に示された時かれらの睡つてゐた政治本能が起されました。人間の肉體に對する科学者の関心が成長し始めたのです。殆んど一夜のうちに、科学者たちは政治活動の絶對的な必要を認めました。かれらは自分たちが政治的に役に立つ機会を求め、またそういう機会をつくり出すために動き出しました。これらの科学者の政治的覺醒の物語は、いつかはアメリカの歴史の中の重要な英雄物語として語られることでしょう。

多くの無経験な婦人市民もまた、これほど劇的ではないまでも、同様の過程を通過してきたのです。自分の町の学校は市民によつて作られたものであること、そして自分も市民の一人であつて、それらの学校を成功させるために役立つことができるといふことにふと気づいた婦人が、学校をよりよくするために自ら機会を見出し、又はそういう機会を作り出すようになったことは珍らしくありません。その婦人は恐らく教育委員会に進歩的な候補者を送出するために仿いたかも知れず、婦人有権者同盟に参加したかも知れません。彼女の経験は、前に述べた科学者の場合のような劇的な、強力なものではなかつたにしても、似かよつたものであつたのです。

④ 公正不偏——有利な点

婦人市民の政治的無経験のマイナズに對し、その埋合せとしてプラスになるのは、ある程度婦人が公正不偏な点です。ラルフ・バートン・ペリーは古典的な思想と同様、市民とは自分自身の利己的な利益と同時に公共の利益を考へるといふ二重の任務をもつものであると主張してゐますが、その説をとるとして、玄く一般の利益を考へるといふ点では婦人の方がつねに男子より自由な立場にありました。配得権をもち、自分の職業上の利害にとられたり、現状維持を主張したりするものは、おもた男子だったのですから。自分たちに参政権がないので長い間じり／＼し又男子が参政権の特権と責任を快用するやりかたに對して多少批判的だった活動的な婦人たちは、理論的に婦人たちは一九二〇年以後に有権者としてのその新しい地位を

まじめに慎重に扱いました。まず彼女たちは男子が解決を怠つていたと考へられた向願——母子保護、社会福祉、及び保健の向願に注意を向けました。か一見それらの向願が片つくとは、婦人の関心は急速に拡がり、今日では男子とそうちがいはありません。が、婦人の公共の利益に對する意識は相変わらず男子よりも強いのです。

實際向願として婦人の利益と公共の利益との間に矛盾が生じた場合、公共の利益を守る方法を意識的に考へ、かつ支持するだけに成熟している人物は少いものです。それ故、あの教養を少く教派の婦人たちがせし、軍同行つて来たことは、わが國の政治にとつて希望をもたせるものであります。^{（この頃より）}物価統制は全國民にとつて最善であると思はれた多くの婦人たちが、個人的にはそのために迷惑したり、犠牲となつたりしながらも、物価を誠心誠意支持したことあります。

婦人たちが公共の利益をまじめに考へていることを証明するものにいくつかの強力な婦人団体があります。即ちそれらはある特定の見解にかたよらずに、広く各方面を代表する婦人を会員としており、それらの会員たちによつて提起される問題をとりあげて懸念に効いていくのです。婦人有権者同盟に相當するような男子の団体はなく、ほかの多くの婦人団体にある、いろいろ、な市民活動部に相當する男子の機関も殆どありません。

◎ 婦人団体の功罪

婦人団体が婦人市民の成長に寄与した役割は認めざるを得ず、それには欠点もなくはなかつたといつておけねばなりません。過去六十年間に突に派山あつた婦人団体やクラブが、どれもこれも殆んど血二つで、お上品な教養とか振養とかいう原則の上に立ち、事實上能動的な市民活動を妨げる作用をしたことを今や卒業に認めべき時です。マーガレット・ミード博士が『戦争時代の半自主的奴隷状態』とよんだものからにげ出した初期の頃に、婦人が社会的に感じのいふ『教養に没頭したことは理解出来ないうことではあり

内三

ません。それに社会的に何かを成すという所望は人間の最も深い欲望の一つです。とかくそういふ種類の団体がなせ今日もこんな多くあるかというところは理解しにくいことです。今こそそういう団体の会員が世界の現状に對してその目的を考へ直さなければならぬ時です。人類にとつて時間と精力とが、それほど大切な時代は昔つてなかつたのですから。

散漫な教育が男子よりも婦人の間に多く行きわたつてゐるのは婦人が久しい同僚経験と劣等感を感んできたことがその原因の一端でありましょう。又アメリカ人の教育のための教育を重んずる傾向もまた、一つの要因であるかも知れません。原因は何であれ、單なる時事問題についてこの教育が、政治のために何かの行動をすること、と思ひがちがえられることが多すぎました。好奇心に富んだ、しかも消極的な見物人として政治を勉強したり講演を聞いたりするところからは、大して政治的な効果は生れないことぐらゐるう分つてゐる境です。又誤るゐることも、それだけでたゞらに目標に向つて前進することを意味してはいないのです。

現在いくつかの婦人団体はその目的と方法を分析しそれを改正してもつと大きな効果をあげようともくろんでゐるといふに強い兆候が見えてゐます。若い婦人が自分の加入する団体を選ぶのに慎重に考へ深くなつてゐるにはいふもありません。

そのほかにも婦人団体に加えられる恐らく当然の非難として、婦人団体が政黨活動にも用いられてよい筈の婦人たちの全額を吸収してしまつたこと、又婦人団体が政黨活動を「女らしくない」もののようにいつて排斥して来たといふことがあげられましよう。

過去五年間にアメリカ人同盟、民主的活動同盟のような男女を共に会員とする市民活動の団体が著しく発達しました。又団体相互の連絡機関全國原子力教育委員会物価統制委員会のような、団体間の連絡機関をつくる努力も男子のグループ、女子のグループをそれぞれに行われましました。婦人有権者同盟の会員はこの同盟を、市民団体（一般の組織からたまに）婦人市民のグループとなりましました（が）と考へており、市民

としての思想と行動とを刺激する事業を社会全体に向つて展開して見ます。同盟には男子の準会員も多く、今では会の名から「婦人」という文字をとつてしまふという意見がたび／＼出ています。もつともその名のもつ名声のためにせめてそのまゝにしておくことになりましようか。

婦人が今では婦人団体を通じて婦人だけ一緒に働くことのおもな理由は便利という点です。家庭婦人の日課は急に変えなければならぬことが多いにもせよ、夫の日課よりは融通がききまゝですから、けれども政治に肉心をもつ組織された婦人は、だんだん男子の協力者をお求めようになっています。又男子たちは、そういう婦人団体の目標とする一般的な福祉事業が市民としての考案や行動の立派な場であることを見みているのです。

◎ 四千六百万の潜在市民

一九二〇年以來、婦人の投票者の数は着実にふえてきています。今や婦人は選挙民の五割以上を占めています。市民の指導者や政治的指導者はこの四千六百万の潜在婦人有権者をどうすればもつとも動員できるかという問題について絶えず語つています。しかし婦人を現状のまま、で動員しようという努力は、婦人の中のみならず、多くが家庭外の有給労働者の中に加わつていく以上、挫折に終るかも知れません。婦人労働者の数は多分今後もが七千七百万ないし二千万を維持するのではないかと思われています。うたとすれば、そういう婦人たちに今までより以上に積極的な市民活動をも望むことはむづかしいかも知れません。かの女たちは経験をもつて市民活動の必要を認めようにはなつても、私たちの文化の形態が現在のようである限り、市民活動について、何もする時間がないでしよう。働く婦人は職業と家事との二重の仕事をもっています。二重労働の不利を補うには短い労働時間と市民活動の機会及び強い刺激のほかにありません。したがつて働く婦人たちが市民活動にどれ位参加できるかは彼等らの大の態度、及び夫が家事をたんで分担するかどうかによつて相当大きく動かされるのです。

職業をもたない婦人の場合には次の二つのことが現実であれば次第に多勢が漢劍に公共的を向題に参加するようになると思つていいでせう。まず第一には簡潔な、気のきいた文章で書いたパンフレット、傳單の強い視覚資料、具體的な行動の手段などにみちた魅力的な、又一層向きのする集會や集團行動の方法を示すことです。効果的な行動をめぐつて行われるべき、した有經驗な集會は出席者に大きな満足を与えます。主婦がとかく陥りがちな矛盾、氣ばかりあつて手も足も出ない状態は、毎日無計画に、だら／＼と使われていることからきている場合が少くないのです。すべての婦人が組織することを経験すること、ないでも共同社会の責任をはたせるように自分の時間を計画的にくみだててそれを従つて自動車を買入れ、ダイヤライターの明き、膳字燈を動かすようになれば、婦人たちはよりよい市民となると同時に、より幸福な婦人となるでしよう。

◎ 「婦人」のもち場——文化的抵抗

第二には婦人は慣習の支持を必要とします。市民活動は当然のことながらなければなりません。多くの婦人がそういう筈はないと思ひながらも、不安の感じをいだき、時には氣がどめながら市民活動に従つていくものです。即ち彼女たちは市民活動の必要を確信しながら、家族に対する責任が第一に大切だと感じていくのです。自分の時間と精力とをどういう風に使いわけるか、夫やその他家族の人々に市民活動の重要ささう納得させるか、日課をどう組み立てるか、これらはみなやっかいな問題です。良心的な婦人は、とりわけ家族の健康と福祉をなおりにしたという非難を望みません。私たちの社会では、家庭の中の男子が立派な目的のために働く時には家族がそれに順応し、そのために犠牲を払うことには慣れていますが、婦人の場合には、家庭のためをわうちをわうちをわうちでもこなうことになつてしまふのでない限り、それをしてはならないのだという考えにとらわれています。けれども婦人たちが政治に対する責任を分担すべきであるならば、その肉心の範囲はひろげられなければなりません。婦人たちは吾界中の何千万の家族が死や苦痛や差別待遇や飢えに苦しんでいる事実をはつきり知らなければなりません。そして政治をこころい

う向度によく対応させるよう行動しなければなりません。

必要というものはいくらのらくく、とでも慣習を変えることができ、実際に渡っています。聡明な市民活動が必要だという事実は、婦人たちに市民としての責任をばたすために、その時間の一部を規則的にこさげることと当然のことだとするようにならねばならない。家族生活はこれに顧みず、その時間の中でのように、日課もそのように処理されるでしよう。個人的な慰安や道義は、文字のよめる野蛮主義が横行している文明の中では私たちの持つことのできない贅沢と見られるでせう。社会的良心、道徳的価値が磨き失われるにちがひありません。そして私たちの複雑な存在の中でより高い社会的善のために何もいらない成人は、不道徳の責を負うべきだということだ、いつかは認められよう。

この社会の態度の進化という点に關しては、一世紀の昔、ルクレシア・モットが「この要求は今の時代の甚だばばないものだから」というので、婦人参政権の要求を出したこととをためらったことを想い起すと興味のないものがあります。けれども結局モットは参政権を要求し、そのために四十年間も幼かざるを得なくなつたのです。今の婦人は昔に比べればずっと少い勇氣と教養の彼れをたちきり良心の咎めを吹き出すことができ、又公天的な向度に参加することが着物や食事や育児のための仕事と同様必要なものとして受け入れられるような生活様式を確立することができると答へます。それを一日も早く実現するための方策を発見することが大切です。

男女を問わずすべての市民にとつての基本的な問題は、人間同志が「一つの世界の中で互いに結ばれているのだ」ということの認識に到達するよう生きようとした、広くかつ深い、同情に富む想像力をどうすればみんながもつようになるかということとです。この同胞主義はなかくむつかしいもので、全人類を考慮にいれた實際的な処置を通じてのみ私たちはそれを確立し、達成することができるとは、そしてそういう實際的な処置は、政治を通じて、法律と秩序を通じて行われるものです。厂吏のこの瞬間において政治を完全なものとするための行動を伴わぬ同胞愛の宣言は、最も恐ろしい、皮肉な不徹底かつ愚かなものと

して咎められるべきものです。原子力と航空時代における聡明な市民活動の必要は、公共向度にかゝるの時間もさかない市民がさげすまれないにほゝるべきにほゝるべきです。ひと言ごとくに、一つの行為ごとに、古い狭い慣習は敗れていくでしよう。市民道徳についての最近の考へ方は、当然個人の行動に重きを置きます。信念を發表したり突例をあげて示すことは、昔からのものですが今日でも効果的な方法で、これによつて民主的な生き方に脚心をもちつては、その教を教へ、市民の良心を深めることとなるのです。

第二次世界大戦後の数年間に婦人はこんな足にして市民たる内容実感を身につけてきました。市民としての男女のちがいはもはや重さもおくにたりません。男子側の一歩進んだ教養は十分活用されつつたにひきかえ、婦人側の教養の不足はおいしく、克服されてきました。今日の婦人には、もはや婦人市民としての意識よりも、單に市民としての意識の方がはるかに強いのです。多くの婦人は、自分の個人的、家庭的な習慣を檢討をとり、規則的に市民活動に参加する余裕を作り出し、原子力時代の市民道徳をうちたてる上に指導的な役割をつとめるのです。もっと適切な又魅力のある機会があり、そして家族の態度が、婦人が公共の向度に参加することを抑える代りにもっとはげます方に変わったならば、ますます多くの婦人が積極的な市民になることは疑いなく、いふまでもなく。

註(筆者カスリン・H・ストリンガス(ハロルド・A・ストリンガス夫人)はワシントンの全国婦人有権者同盟の副会長。夫人はハロルド・A・ストリンガス氏及びドン・D・フライス氏と共に『合衆國におけるマネジヤー政治』、『九市におけるマネジヤー制度』の二書の共同著者となつてゐる。)